

1 3次元空間をみたしている流体の速度場  $v(x, t) = (v_1(x, t), v_2(x, t), v_3(x, t))$  ( $x = (x_1, x_2, x_3)$ ,  $t \geq 0$ ) が与えられているとする。また、時刻  $t = 0$  において位置  $x = \xi = (\xi_1, \xi_2, \xi_3)$  にいた流体粒子が速度場  $v$  に沿って流れるとき、その流体粒子の時刻  $t$  における位置を  $x = \varphi(\xi, t) = (\varphi_1(\xi, t), \varphi_2(\xi, t), \varphi_3(\xi, t))$  とする。さらに、各  $\varphi_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) は滑らかな関数であると仮定し、 $t$  を固定し  $\xi$  の関数と見なしたときの  $\varphi(\xi, t)$  の Jacobian を  $J(\xi, t)$  とする。すなわち、 $J(\xi, t) := \det\left(\frac{\partial(\varphi_1, \varphi_2, \varphi_3)}{\partial(\xi_1, \xi_2, \xi_3)}\right)$ 。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1)  $\varphi(\xi, t)$  がみたすべき式を速度場  $v$  を用いて書き下せ。
- (2)  $\frac{\partial}{\partial t} J(\xi, t) = J(\xi, t)(\nabla \cdot v)(\varphi(\xi, t), t)$  が成り立つことを示せ。

#### レポート作成上の注意

- A 4 版のレポート用紙を使用し、表紙を付けること。表紙には科目名、レポート番号、学籍番号、氏名を記入すること。レポートの左上をホチキス留めすること。
- 最終的な答えだけでなく、途中計算を分かりやすく説明すること。
- ワードプロ、 $\text{T}_\text{E}_\text{X}$  等は使用せず、手書きで（丁寧な字で）作成すること。
- レポートは次回の講義終了後に回収する。